

県少年の主張発表大会

少年の主張発表大会は、中学生が日常生活の中で感じていることや考えていることを発表することにより、若者としての誇りと自主性を育てると共に、同世代の少年の意識の啓発や青少年の健全育成に対する大人の理解と関心を深めるために毎年行われています。

3年生仲尾全史さんが、芳賀地区大会で最優秀賞となり、9月27日に行われた県大会では奨励賞を受賞しました。



仲尾 全史さん

勉強の合間の練習で大変でしたが、よい経験ができました。

今年の生徒会活動

テーマが「いじめ撲滅」なので、自分自身の行動を見直すためにも、生徒全員の意識向上のためにいろいろな考えました。部活動や試験



指導者の岡崎教諭

「いじめ」について考える
「いじめ」ってなんかない。「いや、あれはいじめだ」と言い合っているのを僕は、見かけることがあります。また、どちらもふざけていて、少し嫌なことがあっただけなのに、「いじめじゃん」とふざけて言う人もいます。何がいじめで、何がいじめではないのか、皆さんは考えたことはありませんか。僕が考える「いじめ」は、小さなことから始まり、それがだんだん大きくなっていき、結果的にはその人を苦しませ、一生消えない大きな傷をつけてしまうもので、いくら小さなことでも相手の心を傷つけたらそれは、いじめになると考えます。いじめは絶対になくさなければなりません。

五月のある日、生徒総会で、僕たち生徒会役員で「いじめ0」に向けて作ったビデオが流されました。無視や仲間外れなどのいじめ、相談できる相手がいなくて一人で悩んでいる人、傍観者など、いじめで起こり得るパターンをいろいろ考え、それを再現してビデオを作りました。最初は、「いじめ0」を呼び掛けるつもりで作ったけれど、実際に自分たちで作ったものを見ていくうちに、自分に当てはまるものがあつたりして「どきっ」としました。そして、「いじめ」は他人事ではなく、自分自身の問題になりました。僕は、人と違ったところのある人をくすくす笑ったり、陰口を言う人を止められなかったりしたことがあります。なぜ、そんなことをしたのか振り返ってみると、少しからかいたという気持ちになって相手の気持ちを考えられなかったということ、注意することによって自分も陰口を言われるのではないかと思ったり、他の人がどうなっても自分には関係ないと思っていたからだだと思います。そんな自分の中にあった「いじめ」に気がつき、僕は改めて、この問題について考えてみることにしました。

まず、人はなぜ、いじめをするのでしょうか。それは、

学校や家庭で、ルールやマナーを簡単に破って平気で生活している人がいるのと同じで、本当はやってはいけないとわかっているはずなのにやってしまったり、自分さえよければいいという、人間の悪いところが出てしまっているのだと思います。

では、いじめをなくすにはどうしたらよいのでしょうか。昨年、「いじめ防止対策推進法」が制定されましたが、僕たちが自分ができることは何でしょうか。学校で全校生徒にアンケートを取った時に多かった意見は、「一人一人が相手の気持ちを考えて接すれば、いじめはなくなる」ということでした。僕も確かにそうだと思います。しかし、このことは簡単そうでも難しいことです。それは、人間はどうしても自分中心になりがちだからです。では、いじめはなくなるのでしょうか。

僕は、いじめをなくすためには、いじめがいかにも恐ろしいものであるか、いかに人を傷つけるものであるかということは何回も心に刻まなければならぬと思います。そして、「自分さえよければいい」という気持ちに打ち克ち、いじめはやめる、やめさせる勇氣を持たなければなりません。それは、僕たち自身の悪いところ、弱いところを自覚し、直していくことだと思います。

「いじめ」は、「後悔」を与えるものです。以前、覚せい剤の演劇を見て感じたことと同じように、いじめも一度の過ちで、その人のこれからの人生を台無しにしてしまうのです。誰でも、いじめの恐ろしさ、残酷さはわかっているはずですが、だから、自分の行動に後悔することがないよう、時には自分自身の行動を振り返り、いじめのない未来にするために、「いじめ」という問題から目をそらさず、真剣に向き合っていきたいと思います。

齋藤さん（芳賀南小）が「子どもの料理コンクール」で見事県2位！ ベルモック（道の駅はが内）が「とちぎのヘルシーグルメ選手権」2連覇！



▲表彰式での齋藤裕輝さん・ベルモック鈴木さん

食育推進の一環として行われた県のコンクールで、芳賀南小学校6年生の齋藤裕輝さんと、道の駅はが内に工房を構えているベルモックが、見事上位入賞しました。

10月25日に県庁議会議事堂で行われた「とちぎ食育推進大会2014」で表彰されました。

齋藤 裕輝さん（芳賀南小学校6年生）
平成26年度子どもの料理コンクール
優秀賞「暑さに負けるなパワフルごはん」



周りの人が夏バテしていたので考えたメニューです。

食べることも料理をすることも好きなので、将来はお母さんと一緒に料理屋さんを開きたいです。



●評価された点

- ・野菜をたくさん使っている
- ・身近な食材を使っている

子どもの料理コンクール

子どもたちの「食」に対する理解と関心を深める一助として開催されています。今年のテーマは「主食・主菜・副菜の揃ったワンプレートメニュー」で、県内の小学校4～6年生445名313作品の応募がありました。

ベルモック（道の駅はが内）
平成26年度とちぎのヘルシーグルメ選手権
弁当部門 最優秀賞「とちぎの恵み 彩り弁当」



1番上の横1列を県北、真ん中1列を県央、下の1列を県南に例えて、地域の農産物で栃木県を表現しました。

2年連続の最優秀賞はうれしく光栄です。



●評価された点

- ・栄養バランスや減塩に配慮している
- ・野菜をたくさん使っている

とちぎのヘルシーグルメ選手権

おいしくて健康・栄養面に配慮され、かつ地域の食材や特色を踏まえたメニューを、県民から募って行われるコンテストです。4部門で競われ、弁当部門は今年11作品の応募がありました。